

＼ ご協力ありがとうございました！ ／

令和6年能登半島地震の 復旧・復興に向けた 静岡県内非営利組織 による活動調査

公益財団法人ふじのくに未来財団



静岡から
支えよう！
能登半島！

調査報告書

2024年3月8日

■調査目的

活動のフェーズが変わりつつある現時点（2024年2月）における、静岡県内非営利組織の能登半島地震の復旧・復興に向けた活動に関する現状や意向を把握し、効果的な助成・支援プログラムを企画すること

■対象

静岡県内に事務所を置く非営利組織（任意団体を含む）

■調査期間

2024年2月2日～2月16日

■回答にかかる時間

5分程度

■回答団体数

18件（属性は4ページ目参照）

(1) 任意団体、もしくは法人格をお選びください。

- 1.任意団体
- 2.NPO法人
- 3.特例認定NPO法人
- 4.認定NPO法人
- 5.一般社団法人
- 6.公益社団法人
- 7.一般財団法人
- 8.公益財団法人
- 9.社会福祉法人
- 10.その他（ ）

(2) 主たる事務所がある市町名をお選びください。【静岡県内35市町より選択】

(3) 主な事業・活動領域について、最も重点を置いているものを、下記から1つだけお選びください。【NPO法の活動目的を参考に18分野より選択】

(4) 令和6年能登半島地震の復旧・復興に向けて、発災から現在（調査回答時点）までに、貴団体で取り組んだこととして該当するものをすべてお選びください。

- 1.報道等を通じた現地におけるニーズ把握
- 2.現地で活動するNPOと連携したニーズ把握
- 3.他団体主催の活動の支援呼びかけ
- 4.支援活動を企画するための現地での訪問調査
- 5.現地での支援活動の企画や寄付募集
- 6.現地での支援活動の実施
- 7.現地へ送るための支援物資の募集
- 8.取り組んでいない
- 9.その他（ ）

(5) 今後、現地への支援を目的とした貴団体が行いたい活動として、該当するものをすべてお選びください。

- 1.報道等を通じた現地におけるニーズ把握
- 2.現地で活動するNPOと連携したニーズ把握
- 3.他団体主催の活動の支援呼びかけ
- 4.支援活動を企画するための現地での訪問調査
- 5.現地での支援活動の企画や寄付募集
- 6.現地での支援活動の実施
- 7.現地へ送るための支援物資の募集
- 8.現時点で取り組む予定はない
- 9.その他（ ）

(6) (5)のうち、貴団体が最も力を入れたい活動について、具体的な内容を教えてください（例：現地で連携する子育て支援NPOから報告されるニーズを踏まえて、物資の募集を行い、発送する／静岡県内に避難してきた被災者の生活支援）。

【自由記述】

(7) 今後、貴団体が現地への支援を行う上での障壁や課題として、該当するものを最大3つまでお選びください。

- 1.自団体と関連するテーマの現地団体が見つからない／どこと連携していいかわからない
- 2.現地におけるニーズ把握の適切な方法がわからない
- 3.ニーズを踏まえた適切な支援の企画が立てられない
- 4.支援企画を実行するための人員が不足している
- 5.支援企画を実行するための資金が不足している
- 6.支援企画を実行するための寄付や物資の募集の方法がわからない
- 7.支援企画を実行するための寄付や物資が集まらない
- 8.支援物資の置き場がない
- 9.支援企画実施後の会計処理が追いつかない／適切かどうか不安がある
- 10.その他（ ）

(8) 今後、私たちふじのくに未来財団による支援として期待されている点があれば、自由にお書きください。

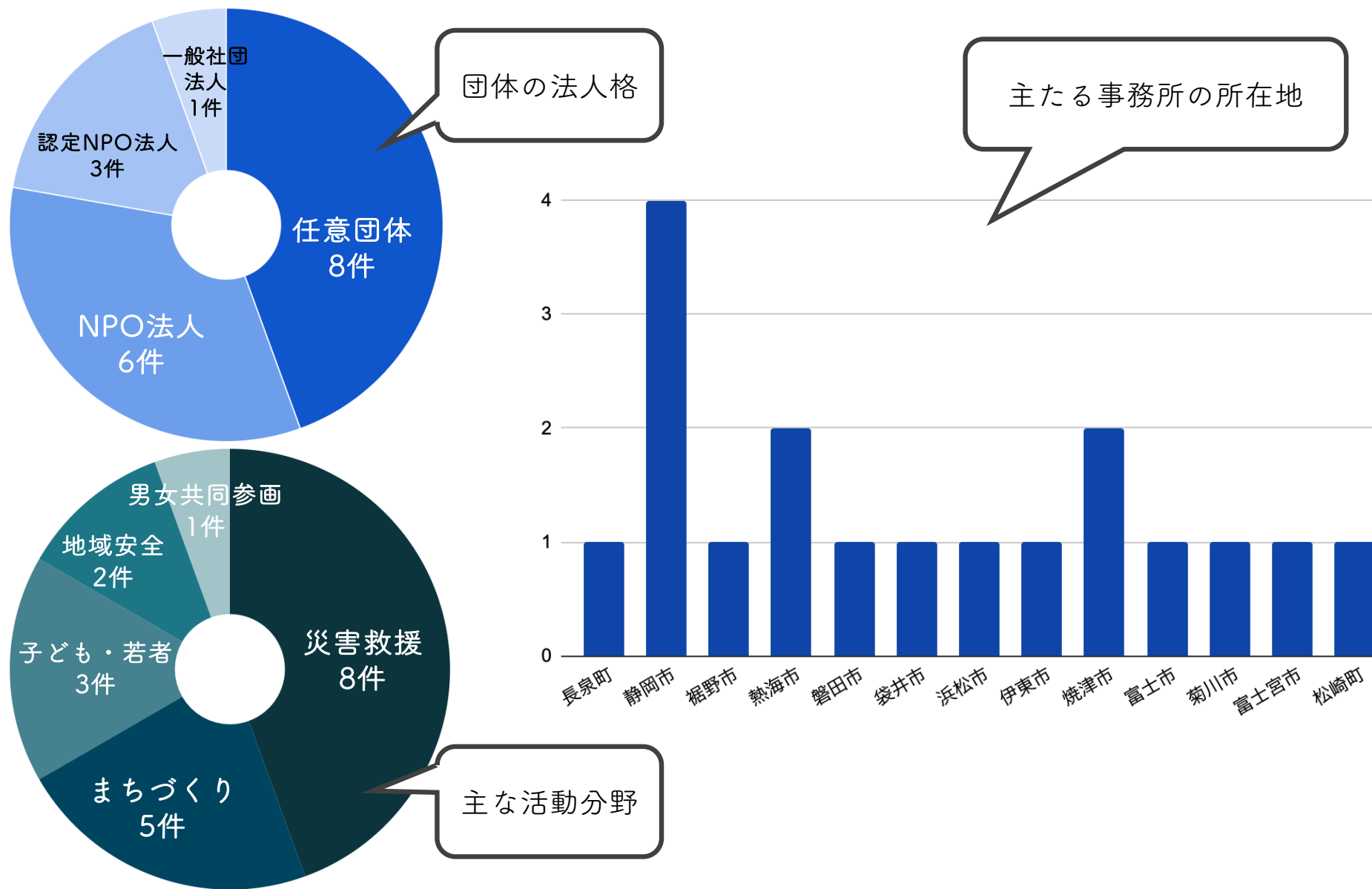
【自由記述】

今後、本調査に基づいてプログラムの企画を行います。企画した際にご案内を希望される方は、お手数ですがお名前、ご所属、メールアドレスの回答をお願いいたします。

お名前（ ） ご所属（ ） メールアドレス（ ）

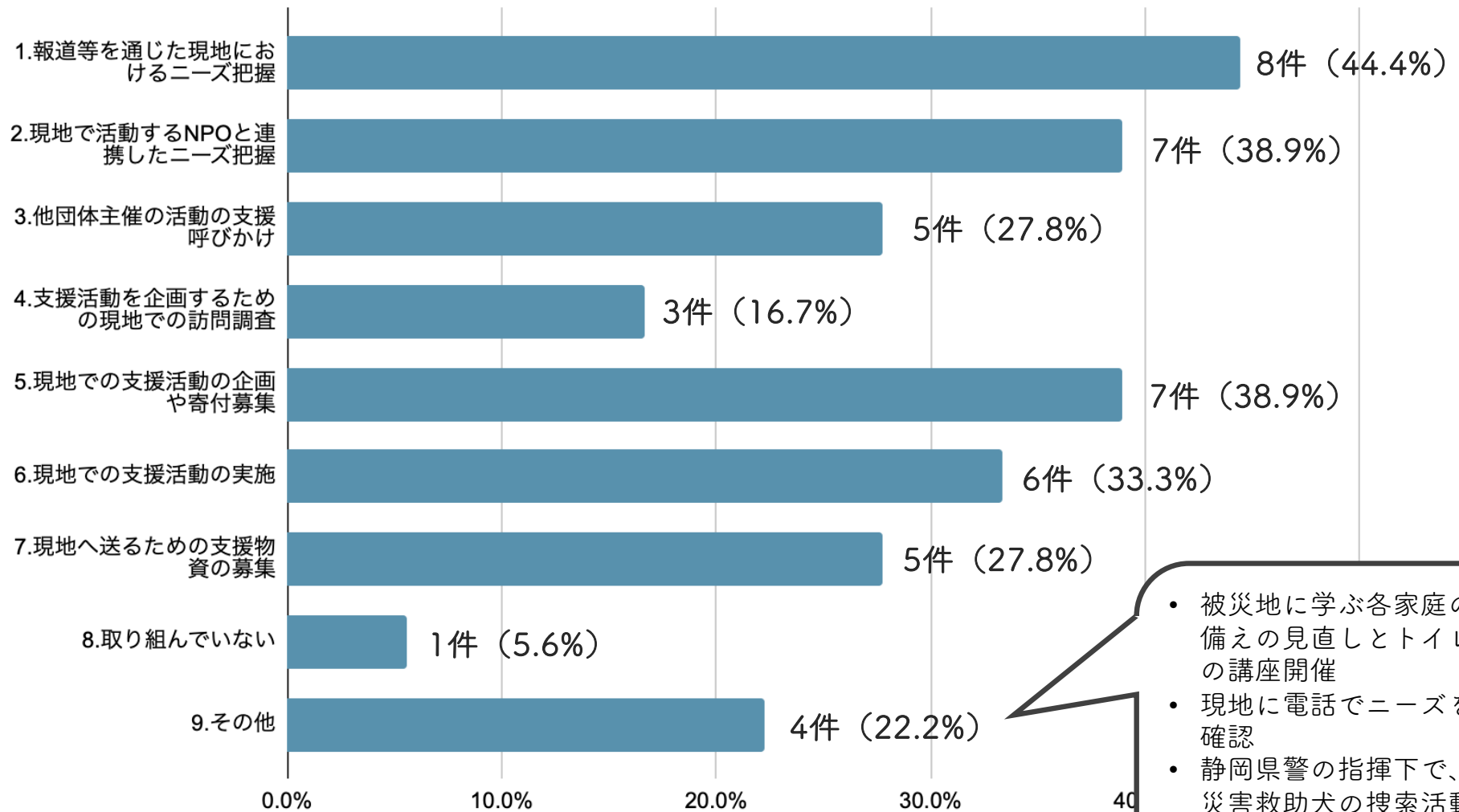
(1) (2) (3) 回答団体の属性

静岡県内様々な地域・分野で活動する18団体が回答した。



(4) 令和6年能登半島地震の復旧・復興に向けて、発災から現在までに取り組んだこと【複数回答】

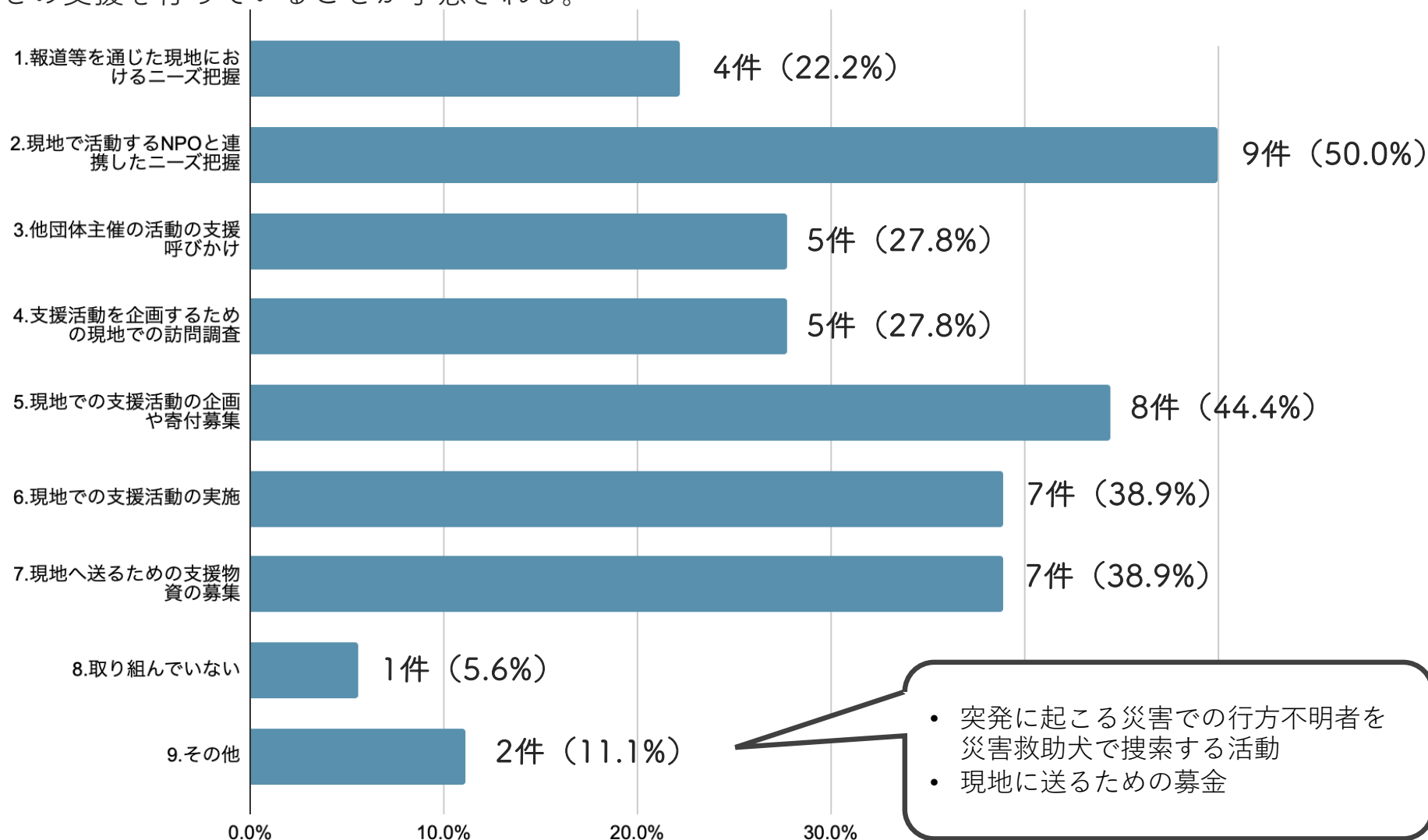
「報道等を通じた現地におけるニーズ把握」が最も多く、ついで「現地で活動するNPOと連携したニーズ把握」「現地での支援活動の企画や寄付募集」「現地での支援活動の実施」が多かった。災害救援を主とした団体の回答が多く、発災からすでに活動している団体が多かったことが影響していると考えられる。



- 被災地に学ぶ各家庭の備えの見直しとトイレの講座開催
- 現地に電話でニーズを確認
- 静岡県警の指揮下で、災害救助犬の搜索活動
- 現地に送るための募金

(5) 今後、現地への支援を目的として行いたい活動【複数回答】

「現地で活動するNPOと連携したニーズ把握」が最も多く、ついで「現地での支援活動の企画や寄付募集」「現地での支援活動の実施」「現地へ送るための支援物資の募集」が多かった。報道等の情報だけでは埋もれがちなニーズを現地団体と連携しながら把握し、必要となる企画や物資募集などの支援を行っていることが予想される。

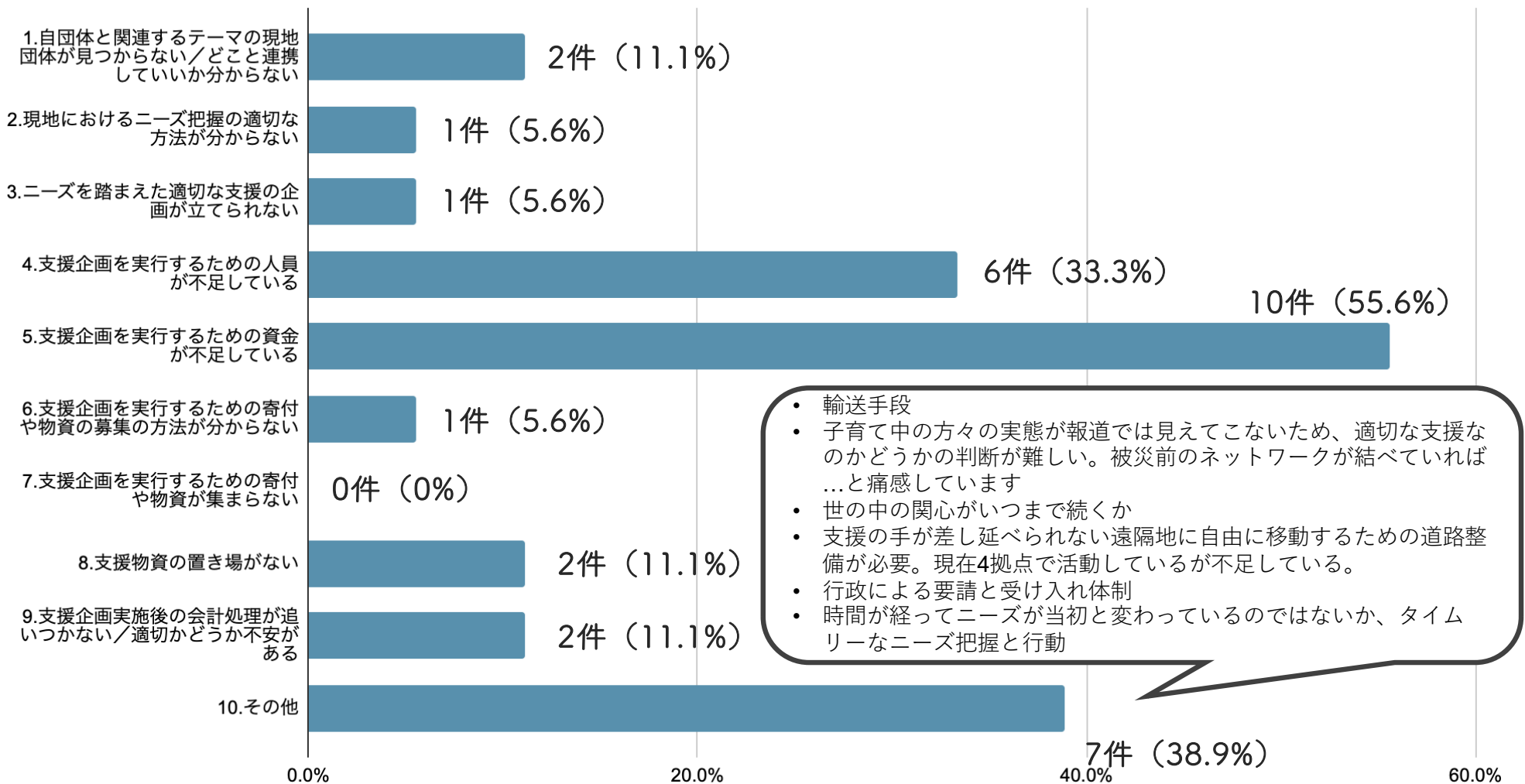


(6) 今後最も力を入れたい具体的な支援活動内容

主な活動テーマ	今後最も力を入れたい具体的な支援活動内容
まちづくり	現地、小中学校の生徒達の要望を聞きたい（自分たちが出来る事があれば応援したい）
まちづくり	現地で活動する支援団体より報告されるニーズを踏まえて、物資の募集を行い発送する。
まちづくり	現地で被災者支援活動を行うNPO団体と連携を持ち私たちの集めた支援金を活用して頂く
災害救援	しずおか子育て防災ネットワークで実施する『子育て世帯への支援物資送付』作業
災害救援	技術系災害ボランティア活動、現地でのサロン活動
災害救援	現地で連携する子育て支援NPO、社協、被災者からのニーズを踏まえて、物資の募集を行い、発送する
災害救援	現地の漁業復興支援をはじめとした水際に関わる支援
災害救援	障がい当事者のニーズ把握と生活支援 被災家屋からの貴重品の取り出し 現地で活動するNPO等の連絡会議のサポート など
災害救援	震災直後より家屋の片づけ、災害ごみの処理、移動手段を失った、又は必要とする被災者や支援団体向けに無料で軽トラックや軽バン、小型車、ミニバンを貸出し早期の復興を支援すべく活動を行っています。現在700件を超える申し込みがあり車両の準備や現地への運搬に努力しています。
災害救援	早期災害地での受け入れ体制の充実、行政によるスムーズな受け入れを望む
災害救援	避難所の運営支援と感染症対策
子ども・若者	現地で支援活動をしている団体への後方支援。（寄附金送金や必要物資の送付）
地域安全	譲渡会などで寄付の呼びかけ
地域安全	連携している団体への協働しての現地の生活再建サポート

(7) 今後現地へ支援を行う上での障壁や課題【該当するものを3つまで】

「支援企画を実行するための資金が不足している」が最も多く、ついで「支援企画を実行するための人員が不足している」「その他（輸送手段確保、世の中の関心の薄れ、被災地の道路整備など）」が多かった。また、現地団体との連携先がない団体やニーズ把握から企画立案に課題を抱える団体や、支援物資の置き場、寄付等を受け付けた後の会計処理の不安をあげる団体も見られた。



(8) ふじのくに未来財団へ期待すること

支援企画に対する助成、信頼できる現地団体とのマッチング、ネットワーク化、静岡での防災教育・啓発、災害復興への機運づくり、ロビイングなどへの期待が寄せられた。

主な活動テーマ	今後最も力を入れたい具体的な支援活動内容
まちづくり	子ども達への支援
まちづくり	東日本大震災の時は浜松市民協働センターの紹介で被災地で支援活動をする団体とつながりました。送金も認定NPO法人を通して行いました。活動報告も写真も頂き顔の見える支援が10年間続きました。今回の能登も同じように支援できればと考えて募金活動は行っています。まだ現地の支援活動が定着していないかと思えます。信頼できる団体とつながって支援する皆様の気持ちが届けられるようになることを期待しています。大した金額ではありませんが、必要な物もリクエストいただけたらそれも調達したいと思います。
災害救援	被災地支援に行くには子育て中でもあり距離もありなかなか難しいですが、被災地の現状に学んで自分たちの備えを見直すための啓発活動はできると思っています。 また、被災前からのネットワーク化もこれを機に全国的に進めたほうがいいと実感しています。（今回、支援先がなかなかみつからなかったため） それらのための財政的な支援などがあるとありがたいです。
災害救援	企画に対して適用していただけるのであれば、速やかに資金提供していただけること
災害救援	支援を行う団体への資金助成 県民への関心を下げないための情報発信
災害救援	活動資金が過去に例を見ないほど膨れ上がると思うが全体像が見えていない。
地域安全	今回の災害では募金やボランティアがどうこうでなく、国が災害復興や被災者救済に取り組まない姿勢が浮き彫りになりました。政府、または県内選出の国会議員に対して、私たち市民活動を行う人たちが、要望を伝える場を設けていただければ嬉しいです。本当にこの国に生きる希望がなくなったというか、若い人たちにこの現状を見せるのが切ないです。